

第3回中部圏広域地方計画学識者会議

日時：平成20年11月6日（木）15:00～17:00

場所：名古屋商工会議所5階 ABC会議室

1. 開会

2. 挨拶

（佐藤中部地方整備局長）

- ・ 本日審議頂く中間整理案は2年間の協議をまとめ、今後の成案作成に向けたたたき台であり、今後は中部圏が担う役割を色濃く出していきたい。大所高所からのご意見を頂きたい。
- ・ 北陸圏との合同協議会も設立され、“中日本”という概念が生まれてきたのではないか。

3. 議事

1) 中部圏広域地方計画学識者会議 座長選出

（事務局：中部圏広域地方計画推進室 荒川室長）

- ・ 座長の任期は1年であり、委員の互選をお願いしたい。

⇒（須田委員）

- ・ 今までも座長であり、全国計画策定にも携われた奥野先生が相応しいと考え、提案したい。

⇒（一同）異議なし

⇒（事務局：中部圏広域地方計画推進室 荒川室長）

- ・ 奥野先生に座長をお願いしたい。

⇒（奥野座長）

- ・ 中部圏の広域地方計画は平成18年度から審議されているが、皆さんの知恵でより良いものにしたい。

2) 中部圏広域地方計画中間整理案について

（事務局：中部圏広域地方計画推進室 石原総括副室長）

- ・ **資料1**、**資料2**説明
- ・ **資料1**は中間整理案となっているが、今後事業を追加していく。第4章はコンセプトのみ。取組や構成する事業を追加する。

（重川委員）

- ・ **資料2**p12「克災対策強化プロジェクト」について、中部圏は東海・東南海・南海地震の切迫度が高いが、対策の具体性が見えない。どの地域の危険性が高く、どのように対応すべきか、国や各自治体で示されている防災計画等との連携を図るべき。
- ・ 被害抑止を考える前に、土地利用も考えなければならない。低地に色々な物が集積し

ているため、土地の嵩上げ等の抜本対策が必要。安全な土地利用転換とともに施設整備の長期的なスケジュールを考えるべき。

- ・ 計画全般について、地元市町村、市民、コミュニティの役割、姿が見えてこないのが問題である。広域圏を考えると、人と人の繋がりが最も重要。広域連携のために基本的構成要素の人々が具体的に何をすればいいのか分かるようにすべき。

(後藤委員)

- ・ リーディングプロジェクトは実現可能かどうか重要。「暮らし」に関連する部分は、市町村、住民団体、NPO と実現に向けた仕組みづくりをしていくことが大事。
- ・ ⑨多文化共生先進圏づくりプロジェクトは様々な取組があるが、個々ばらばらで行われている。今後は雇用、生活、教育の問題が重要。多様な課題を横に結びつけ、さらに国や都道府県や市町村と垂直的にどのように行うかを考えることが重要。
- ・ ⑩暮らしの安心・快適プロジェクトについて、福祉や医療での担い手不足の問題や都道府県、市町村の壁を越えた連携による安心・快適の問題への取組を同時に進めることが重要。
- ・ 東京圏、関西圏との役割分担と、中部圏の強みをどう発揮するか議論を加味しながら検討していくべき。

(金城委員)

- ・ 具体的イメージにある取組事例は一時的な賑わいに終わってしまうケースが多く、中山間地域の農林業と農村の活性化は期待できないのではないか。計画が“絵に描いた餅”にならないよう、農林水産業従事者の生計がどうしたら成り立つかというような視点からの検討が必要。
- ・ 食の安全・安心について、自給率の向上に関する事が言及されていない。自給率 50% 達成などの目標を設定する必要がある。目標達成のためには、地産地消の推進などの取組があるが、実行可能なものでなければ机上の空論であるため、P D C A の評価システムを機能させるべき。
- ・ 大学、研究機関との産業発展への関わりについて、全体的にもものづくり産業の発展に関する大学の関与の扱いが小さい。大学参加の意義の強調をお願いしたい。今後、名古屋大学を中心に、各地方大学間で分野ごとに強固なネットワークが形成され産業振興などに深く関わってくることが予想されるため、そのような視点からの記述がなされてもよいのではないか。

(奥野座長)

- ・ 自給率 50% の設定は、国としても掲げており、調整が必要と思われる。
- ・ 環伊勢湾地域の範囲はどこまでか。

⇒ (事務局：石原総括副室長)

- ・ 伊勢湾流域というイメージ。

⇒ (奥野座長)

- ・ “環伊勢湾流域圏” とした方がよいのではないか。

(大坪委員)

- ・ 中部圏広域地方計画の最大の欠陥は、人材育成の点が弱い事である。広域地方計画の作成には国の縦割りの観点では駄目。経済産業省、文部科学省等を含めて政策の横断的、有機的、全面的な連携を図るべき。中央や地方の底上げ戦略会議との連携も必要。
- ・ 人材をどう集めるかが鍵であり、優秀な人材が居なければ高付加価値産業は創出されない。
- ・ 人材の問題については、大学をどうするか、大学を中心とした圏域を考えてはどうか。世界では大学を中心に都市が形成され、都市の発展が起こっている。
- ・ 文化芸術の視点を入れるべき。文化芸術の拠点、センターがあってもよい
- ・ 今後は地方の時代。地方が持っているアイデアを吸い上げ、反映してもらいたい。
- ・ 期限とアウトカムが記載されていない。抽象的な目標ではなく、測定できるものを記載しなければ、PDCAが回らない。
- ・ どうすれば税収を上げられるか、税金を支払えるようになるにはどうすべきか、という視点が重要。この地域はどのくらいの所得水準を目指すかを決め、アウトカムの中に入れてもらいたい。

(伊藤委員)

- ・ 中部圏開発整備法が成立してからの約40年の計画の総括、功罪を示して頂きたい。それを踏まえて新しく出発すべきである。
- ・ 全国総合開発計画の冒頭に記載されている「国土の均衡ある発展を目指す」という視点は重要。新全総では「過密箇所の解消」が掲げられ、都市の過密は解決されたと評価できるが、過疎問題は未解決。今度の計画が、実行可能なものであるかはどのページにおいても疑問あり。
- ・ 中部圏は東京と違い分散型といわれているが、近年、名古屋への集中、地方での疲弊が起きている。市場原理から考えると都市への集中は必然であるが、今度の計画はこれを是とするのか、それとも多核構造にもっていくのか、それはどのような方法で行うのが提示されると良い。
- ・ 地域の自立的発展のため、中部圏をある規模に分割し、その一つ一つに対し施策が必要ではないか。
- ・ 以前も北陸と中部は一体で考えるように提案している。そういう意味では、「世界のまんなか」という表現は誤解を与えるのではないか。

(渡邊委員)

- ・ 中部圏らしさの演出が必要であり、もう一度ブラッシュアップして頂きたい。リニアについては念頭に置くべき。中部圏が世界から人や資金を呼び込める地域という事を滲ませる必要がある。
- ・ 人を呼び込むためには、大学を選択と集中により絞り込み、特徴を出すことが必要。大学間連合で、世界から優秀な人材を集める事は一つのプロジェクトとして立てるべきではないか。

- ・ プロジェクトの書き方について、現状と課題をコンパクトにし、アウトカムを書いていくことにより、プロジェクトらしくなるのではないか。
- ・ 産業イノベーションについて、航空宇宙産業、環境産業等、中部圏が伸ばせる産業を具体的に記述すべきであり、それにより中部らしい産業集積のアウトカムが見えてくるのではないか。
- ・ **資料2**p10 の図にセントレアに関する記載が無いが、10年後には、人・物を集める国際拠点空港になるという重要な要素を持つため、検討頂きたい。

(事務局：石原事業調整官)

- ・ 人材育成については再考し、記述したい。
- ・ 文化芸術については一つプロジェクトがあるが、第3章にも記述するようにしたい。
- ・ アウトカムは出来るだけ記載していきたい。プロジェクトについては、第4章に何らかの指標を入れたい。
- ・ これまで国の機関や県と検討してきたが、頂いた意見を基にさらに議論を深めていきたい。

(奥野座長)

- ・ “交流・連携”がこの計画のキーワード。もう少し書き込んでもいいのではないか。
- ・ 国立大学間連携は既に始まっている。

(松尾委員)

- ・ 交流・連携、総合、選択と集中で重点化して具体的に進めることが重要。
- ・ 現代社会の食料、エネルギー、水などの重要課題に対しては、国交省などの特定分野だけの対応では限界である。今後は、選択と集中により重点分野を取り上げ、実際に出来る形で進めていくべき。その際に国交省だけではない全体的な枠組みを作っていくリーダーシップを取る事が国交省としては価値がある。
- ・ 不十分な視点は“水”についてである。食料、エネルギーの安定確保のキーワードは水であり、もっと正面から取り上げる価値がある。水問題については、このままでは総花的であり、一步踏み込んでもらいたい。
- ・ 水に生かされている地域にもかかわらず、水をおろそかにしている地域でもある。自然水の有効活用という観点から、環境用水という言葉を入れてもらいたい。

(古田委員)

- ・ **資料2**p27、コンセプト概要の「分水嶺をはじめとする流域圏全体の連携強化」に関連して、具体的イメージの図は分水嶺地域だけを囲っているが、森・川・海の生態系を一体として捉えるような広域的な範囲での取り組みを明示すべき。
- ・ 中間整理案 p42、“歩行者・自転車にやさしい生活環境の整備”は重要であるが、広域的に何をすることが不明確であるため、何が出来るかを書き込むべき。
- ・ 全体的に、ハードに重きを置いた計画となっている。暮らしが10年後にどの程度豊かになるかを伝えられるよう、全体的なブラッシュアップをすべき。

- ・ フードセキュリティ、食の安全については、自給率の向上、量的な確保についても食の安全に含まれる。また、地産地消について、CSA（コミュニティが支える農業）、中部圏の地理的区分の中での顔の見える関係について記述すべき。
- ・ 三遠南信プロジェクトの中で、長野県売木村の成功事例のような限界集落をクリアできるような取組が他にもできないかと考えている。
- ・ 農村の女性の記述について、地域の農村女性がエンパワーメントしていくようなところが配慮されないかと考える。
- ・ まんなか巡り観光交流プロジェクトでは、ホスピタリティの観点からも食の問題が重要。

（竹谷委員）

- ・ 「日本のまんなかから世界のまんなかへ」は積極的に堅持すべき。そうすることによりこの地域の特性と課題が見えてくる。
- ・ 多極分散型の地域構造の特性は、都市農村交流がしやすいなど農村の活性化のためにポジティブな役割を果たせるのではないか。
- ・ 大学がものづくりや多極分散型地域構造の中でどのような役割を果たすかを記述すべき。また、地域が知の拠点である大学を活かすためにどのように大学と連携をすべきかを検討すべき。さらに若者が集まる魅力ある地域づくりをどのように打ち出すか、担い手となる若者がどのような目線を持っているのか考えながらより効果の上がる具体策を考えて頂きたい。
- ・ 世界から優秀な人材をどう集めるのか、そのための基盤整備はどうするかを考えて頂きたい。
- ・ 自給率の問題について具体策を考える上で、数値目標を達成するために各々の地域に何が必要かという視点が重要。
- ・ エコ産業を構想する際には、物流の実態から見て東アジアを想定した具体策を作り上げていく必要があるのではないか。

（須田委員）

- ・ 羅列的に記述されているため、今後はアクセントをつけるべき。
- ・ 中部は日本のまんなかという特別な立地条件のもと、全国の役に立つ地域であり、それに相応しいインフラを持ち、その成果を全国に波及するように使う役割・義務がある。このことを強調すべき。
- ・ 人的な交流、文化芸術の交流、技術の交流という 3 つの交流が必要であり、そのベースとして環境問題、安全問題を組み立てていけば整理しやすいのではないか。
- ・ 中部全体の計画であるべきものが、名古屋中心の計画に見える点がある。「まるっと」というのは名古屋の方言だと思われる。どうして、「まるごと」や「総合的」という言葉ではいけないのか。中部の計画らしさを出すべき。全国の人、中部の人が納得するものとする必要がある。
- ・ キーワードは、安全。3つの交流すべてに安全がかかわるため、既存の「安全・安心」の中で特に“安全”にウエイトを掛けてもらいたい。

(奥野座長)

- ・ “ロータリー”という言葉は中間整理案のキーワードとなっているが、漠然としていてわかりにくい。説明資料には、意味のわかる言葉を添えて頂きたい。
- ・ セントレアの二本目の滑走路について、本文にはかなり書き込まれているものと理解している。国の複数の審議会の提言で踏み込んだ結果であり、安泰であると感じる。
- ・ 「長期的」という表現について、伊勢湾口道路の長期的と、空港の長期的とは異なるため、もう少し言葉を継ぎ足して頂けないか。
- ・ 近畿圏との連携について、県境の問題をもう少し記述するべき。

(事務局：石原総括副室長)

- ・ 頂いた意見を今後付け加えていきたい。
- ・ 個別事業は、次回原案までには入れていく方向。中間整理案は取組のみ。

3) 中部圏広域地方計画 今後のスケジュールについて

(事務局：石原総括副室長)

- ・ 資料3 説明

4. 閉会

(中田中部運輸局長)

- ・ 本日本示した資料は、将来がどうなるかという道筋が示されていないため、頂いたご意見を踏まえ、今後ブラッシュアップしたい。

(事務局：荒川室長)

- ・ 次回学識者会議は、原案取りまとめの際に開催予定。
- ・ 追加意見があれば、事務局までお願いしたい。

以上